

# 緊急提言シンポジウム：森と海をつなぐ日本の再出発

およそ1ヶ月ほど前、私たち(稲本 正、C・Wニコル、成澤由浩)は、“森を創る・森を使う・森を食す”というテーマの基、お互いに連携し合い、今日の災害を乗り越える事を含め、最大限の努力をし、これを機に「日本が生まれ変わる」事を提言したい、という宣言書を発表いたしました。大震災発生から、11日後のことでした。

地震/津波/原発/停電/交通、死者・不明者の増加、そして長引く避難所生活など、まさに連日報道される中、多くの専門家や、ボランティアの皆さんたちとも議論を重ねてまいりました。気仙沼で牡蠣養殖が壊滅的被害に合った「NPO法人 森は海の恋人」代表の畠山 重篤さんとも、僅かですが電話でお話しできました。

そして今日、3月に誓った宣言書に則り、ひとつの具現化した形をここに発表いたします。震災の影響を受けた東北・東日本の復興支援と、日本の再出発への想いを形に、ひいては地球そのものを考える場として、アートに限らず情報発信ステーションとして名高い「SPIRAL」の協力で、総合展覧会と特別シンポジウムを開催させていただき運びとなりました。

メディアの方々はもちろんのこと、各種専門分野の有識者の方々、東京の方も、できれば被災地の方にも、お子様や学生の方々～諸先輩方に至る全ての年齢層の人たち、日本人だけでなく海外の方々・・・、あらゆる人々にSPIRALに集まっていただき、みんなで、“緑の国へ”の第1歩を考えてもらいたい、共に歩んで行きたい、そんな想いでいっぱいです。

このたびの緊急シンポジウムは記者会見をかねさせていただきますのでご了承ください。

『森を創る・森を使う・森を食す』連携の集い」 稲本 正

## 緊急提言シンポジウム「森と海をつなぐ日本の再出発」

日時:5月12日(木) 18:30開場 19:00開会～21:15閉会

会場:SPIRAL 1Fカフェ 東京都港区南青山5-6-23

主催:財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団 NPO法人ドングリの会

協力:グリーン・エナジー・アドベンチャー

協賛:株式会社インテージ、株式会社岡村製作所、バンタン

## プログラム

オープニング 朗読「ナラの木」(ジョニー・ライダー作 高槻成紀訳) 俳優 相澤一成

第1部 ご挨拶 稲本正(NPO法人「ドングリの会」、オークヴィレッジ代表)  
畠山重篤氏(NPO法人「森は海の恋人」代表)  
C・Wニコル(財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団理事長)

報道関係者による撮影及び質疑

第2部 パネルディスカッション

パネリスト: 畠山重篤氏(NPO法人「森は海の恋人」代表)  
高見裕一氏(元衆議院議員)  
大熊孝氏(新潟大学名誉教授～河川工学専門～)  
C・Wニコル(財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団)  
稲本正(NPO法人「ドングリの会」、オークヴィレッジ代表)

コーディネーター宮林茂幸氏(東京農業大学教授・美しい森林づくり全国推進会議事務局長)

閉会



2011・国際森林年

2011 国際森林年プロジェクト 【 緑の国へ ～木と語り、自然に学び、そして地球を考えたい～ 】

## 緊急提言シンポジウム パネリスト・コーディネーターのご紹介

### 畠山重篤氏(NPO法人「森は海の恋人」代表)

宮城県気仙沼市にて営んでいた牡蠣養殖場、船、作業場など壊滅的被害を被る。震災/津波により母を亡くす。「必ず海は戻る！」と力強く立ち上がり、5/12のシンポジウムに駆けつけていただける予定。

1943年中国上海生まれ。県立気仙沼水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖業を継ぐ。海を守るには海に注ぐ川、さらにその上流の森を守ることに気付き「牡蠣の森を慕う会」を結成。1989年より気仙沼湾に注ぐ大川上流の室根山で、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人」運動をすすめて17年目になる。この活動は、小・中学校の教科書にも紹介されている。同時に、環境教育の手助けとして上流域の子どもたちを養殖場に招く体験学習を続け、招いた子ども達は7000人を超える。2003年に緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰。2004年に宮沢賢治イーハトーブ賞受賞。2005年には、京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授にも就任。94年朝日森林文化賞、2000年第6回環境水俣賞、2004年第52回日本エッセイスト・クラブ賞などを受賞。



### C・Wニコル(作家・環境保全活動家・探検家)

英国南ウェールズ生まれ。1967年より2年間、エチオピア帝国政府野生動物保護省の猟区主任管理官に就任。シミエン山岳国立公園を創設し、公園長を務める。1972年よりカナダ水産調査局淡水研究所の主任技官、また環境保護局の環境問題緊急対策官として、石油、化学薬品の流出事故などの処理に当たる。1962年に空手の修行のため初来日。1980年、長野県に居を定め、執筆活動を続けるとともに、1986年より、森の再生活動を実践するため、荒れ果てた里山を購入。その里山を『アフンの森』と名付け再生活動を始める。2002年、『アフンの森』での活動や調査等をより公益的な活動を全国展開するために「C.W.ニコル・アフンの森財団法人」を設立し、理事長となる。1995年7月、日本国籍を取得。2005年、英国エリザベス女王陛下より名誉大英勲章を賜る。



### 稲本正(NPO法人「ドングリの会」、オークヴィレッジ代表)

作家、工芸家。1945年富山県生まれ。立教大学に勤務後、1974年に「人と自然、道具暮らしの調和」を求めて工芸村「オークヴィレッジ」(岐阜県高山市清見町)を設立、代表となる。お椀から建物まで幅広い工芸を展開する一方、植林活動を行い地球環境における森林生態系の重要性を発信し続ける。1999年、長年の環境保護運動の功績により「みどりの日」自然環境功労者表彰受賞。現在、岐阜県教育委員会教育委員長、東京農業大学客員教授、立教大学「立教セカンドステージ大学」教員、一般社団法人 国際統合医学会評議員などを務める。『日本の森から生まれたアロマ』(世界文化社)、『森の惑星』(世界文化社)、『森と生きる。』(角川書店)、『ロハス・シティの夜明け』(マガジンハウス)、『心に木を育てよう』(PHP研究所)など著書多数。



### 宮林 茂幸氏 コーディネーター

東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科森林政策学研究室教授(農学博士)  
日本森林学会会員、林業経済学会評議員、日本緑化センター理事、  
美しい森林づくり全国推進会議事務局長 ほか

### 高見裕一氏(元衆議院議員)

1956年(昭和31年)神戸市生まれ、追手門学院大学在学中に、神戸で「関西リサイクル運動市民の会」を設立。その後、暮らした環境市民運動を全国に広げ、「日本リサイクル運動市民の会」へと発展。会の代表として、長く日本の環境市民運動をリード。現在、同会を中心とする日本エコロジーネットワーク代表環ネットワーク株式会社代表取締役会長兼社長(CEO)。日本を代表する環境問題の活動家であり、環境政策のエキスパートである。各地の大学で教鞭を執ると同じに、講演、著作活動を展開。自治体や企業の環境政策の指導、立案にも多くの実績を持つ。

### 大熊孝氏(新潟大学名誉教授～河川工学専門～)

台北生まれ。現在新潟大学名誉教授。  
NPO法人新潟水辺の会代表。地域と積極的にかかわり、県内の河川・湖沼の再生浄化や景観保全に尽力。20年度新潟日報文化賞受賞。  
著書:「利根川治水の変遷と水害」東京大学出版会、1981年初版。「洪水と治水の河川史」平凡社、1988年初版、2003年9刷「川がつくった川、人がつくった川」ポプラ社、1995年「技術にも自治があるー治水技術の伝統と近代ー」農文協、2004年など多数。

＜お問い合わせ＞ 平日/9:30～18:00

「『森を創る・森を使う・森を食す』連携の集い」事務局(オークヴィレッジ内) 担当:荒井

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-16栄幸ビル4F TEL:03-5368-1209 FAX:03-5368-1038 mail:forest@oakv.co.jp